

＜概 要 編＞

I 国内の主な特用林産物の生産動向

1 きのか類

令和4年のきのか類生産量は460,890トン(前年比100%)で前年とほぼ横ばいであった。

品目別では、「ぶなしめじ」と「まいたけ」は増加しているものの、他のきのかは横ばいか減少している。都道府県別では、長野県、新潟県、福岡県、北海道、宮崎県、がきのか類の主産地となっている。

2 木炭等

令和4年の木炭(白炭+黒炭)生産量は、6,762トン(前年比94%)で、前年より減少しており、粉炭が5,119トン(前年比112%)で増加した以外、全て前年より減少している。

都道府県別では、順に、「木炭(白炭+黒炭)」が岩手県、高知県、和歌山県、北海道、「粉炭」が島根県、岐阜県、奈良県、宮崎県、長野県、北海道、「木酢液」は岩手県、宮崎県、熊本県、静岡県、福島県、北海道が主産地となっている。

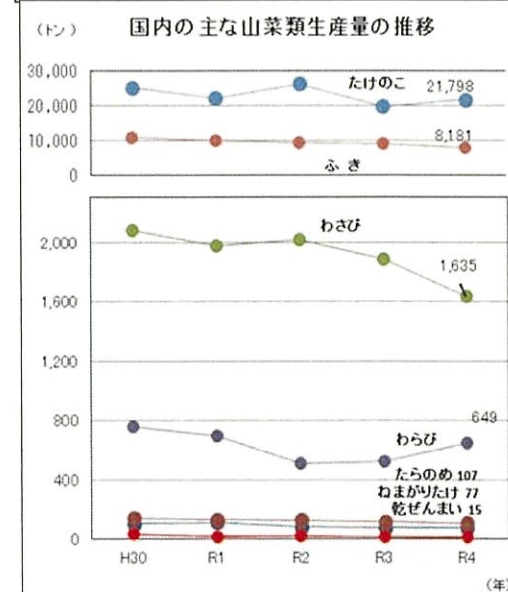
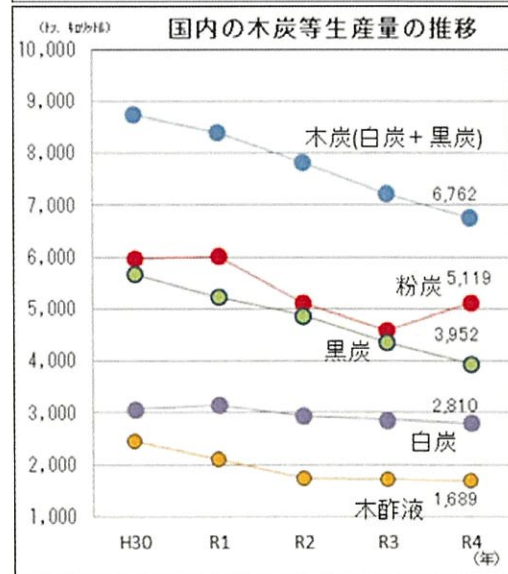
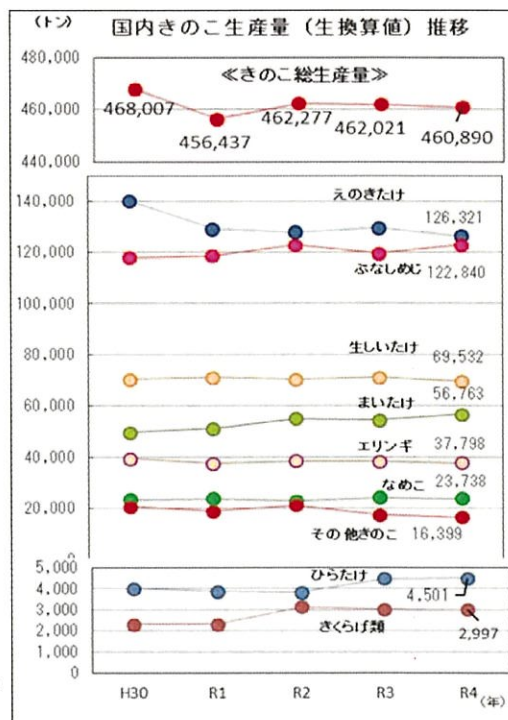
3 山菜類

令和4年の山菜類品目別の生産量は、「たけのこ」が21,798トン(前年比109%)、「わらび」が649トン(前年比125%)で前年より増加しているが、他の山菜は横ばいか減少している

都道府県別では、福岡県、鹿児島県、愛知県、京都府、熊本県が山菜の主産地となっている

4 その他

上記のほか、全国各地で「くり」、「くるみ」、「竹材」、「桐材」、「薬草類」などの特用林産物が生産されている。



Ⅱ 北海道の主な特用林産物の生産動向

1 きのか類

北海道では主に、「生しいたけ」のほか、「えのきたけ」、「ぶなしめじ」、「エリンギ」「まいたけ」、「なめこ」などのきのこが各地で生産されており、令和4年のきのこ類の都道府県順位は、長野県、新潟県、福岡県に次ぐ全国第4位に位置し、全国でも有数のきのこの生産地となっている。

品目別では、「たもぎたけ」が全国第1位、「生しいたけ」が第3位、「なめこ」及び「エリンギ」が5位となっている。

(1) 生産量

令和4年のきのこ類生産量(生換算値)は16,274トン(前年比95%)で、前年から減少した。

品目別では、「えのきたけ」、「エリンギ」「乾きくらげ」「えぞ雪の下」は前年より増加しているが、他のきのこは前年とばい、もしくは減少している。

市町村別では、苫小牧市、愛別町、白老町が主産地となっており、この3つの地域で道内生産量の約72%を占めている。なお、「生しいたけ」の生産量は、約98%が菌床栽培となっている。

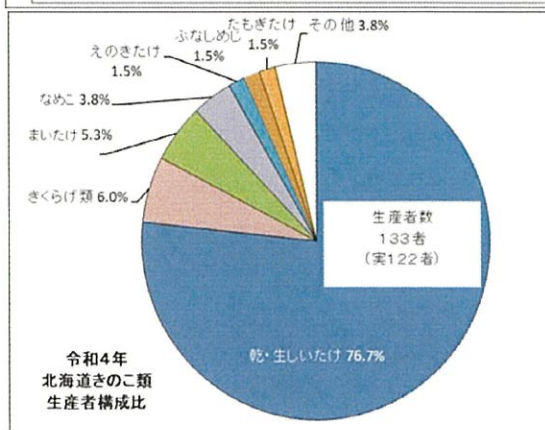
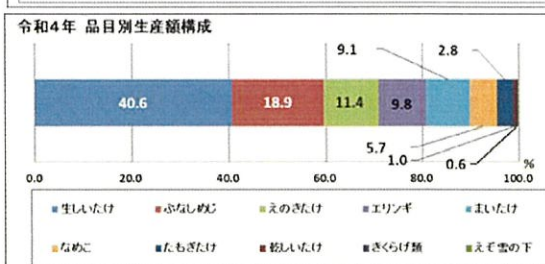
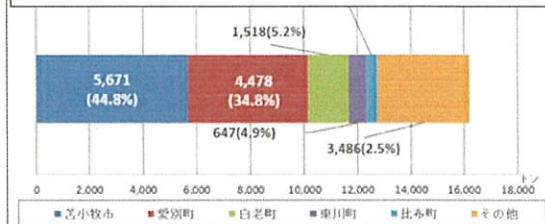
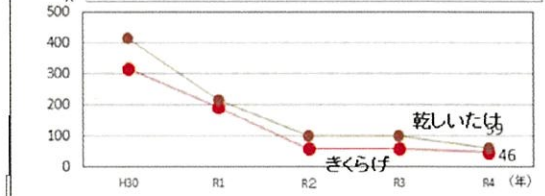
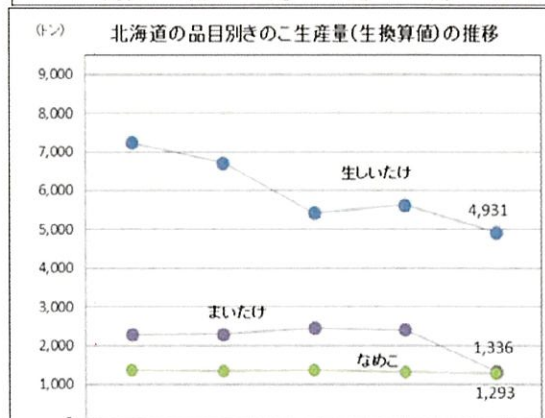
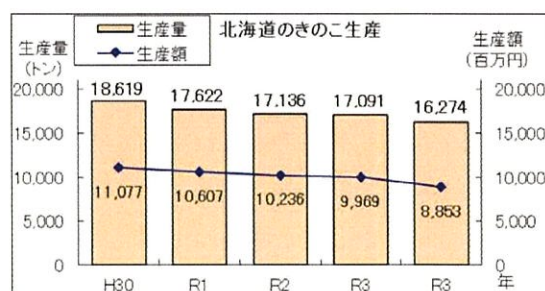
(2) 生産額

令和4年のきのこ類生産額は約89億円(前年比89%)で、前年よりも約11億円減少している。これは令和4年、「生しいたけ」と「まいたけ」の生産量及び生産額が大きく減少したことが要因として大きい。

また、生産額全体に占める割合を品目別で見ると、「生しいたけ」が40.6%、「ぶなしめじ」が18.9%、「えのきたけ」が11.4%、この3品目で全体の約71%を占めている。

(3) 生産者数

令和4年のきのこ類の延べ生産者数は、133者と前年よりも11者減少し、実生産者数も122者と前年より9者減少している。品目別の延生産者数に占める割合は、「乾・生しいたけ」が102者(原木栽培37者、菌床栽培65者)で76.5%、以下、「きくらげ類」が8者で6.1%、「まいたけ」が7者で5.3%、「なめこ」が5者で3.8%となっている。



2 木炭・木酢液

北海道では、古くから木炭（白炭と黒炭）が燃料用として各地で生産されてきたが、「白炭」は平成 22 年以降生産されていない。

令和 4 年の木炭（白炭と黒炭）生産量の都道府県別順位では、岩手県、高知県、和歌山県に次ぐ全国第 4 位に位置し、全国でも有数の木炭生産地となっている。なお、「黒炭」のみの生産量は岩手県に次いで全国第 2 位となっている。

また、木炭以外では、主に農業用（土壌改良等）に利用される「粉炭」や、農業・家庭園芸用（土壌改良や植物活性等）のほか入浴剤など多方面で用途が広がっている「木酢液」も生産されている。

(1) 生産量

〈木炭（黒炭）〉

令和 4 年の木炭生産量は 637 トン（前年比 100%）で、前年と横ばいとなっている。

市町村別では、標茶町、浦幌町、釧路市、森町、池田町が主産地で、この 5 地域で全道生産量約 82% を占めている。

〈粉炭〉

令和 4 年の粉炭生産量は 237 トン（前年比 103%）で、前年より 7 トン増加している。

市町村別では、中川町、下川町、が主産地で、この 2 地域で全道生産量約 70% を占めている。

〈木酢液〉

令和 4 年の木酢液生産量は 48kl（前年比 178%）で、前年より 21kl 増加している。

市町村別では、白老町、森町、浦幌町が主産地で、この 3 地域で全道生産量約 80% を占めている。

(2) 生産額

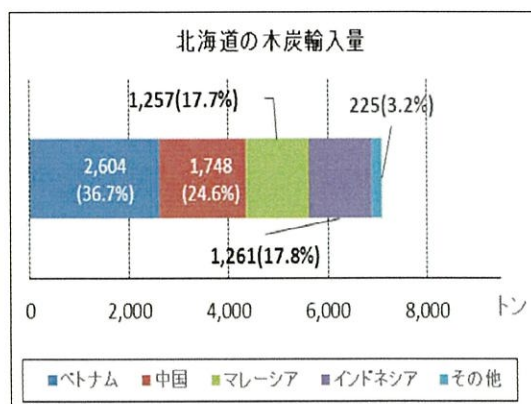
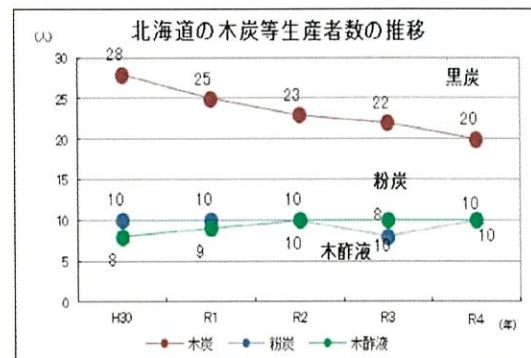
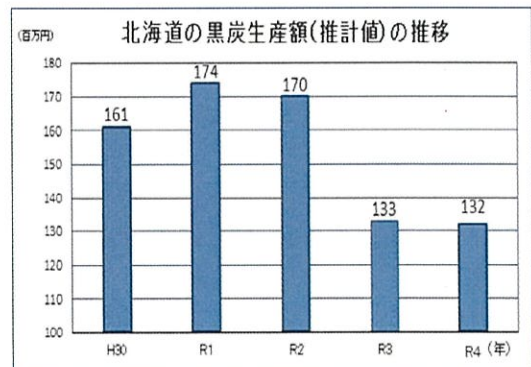
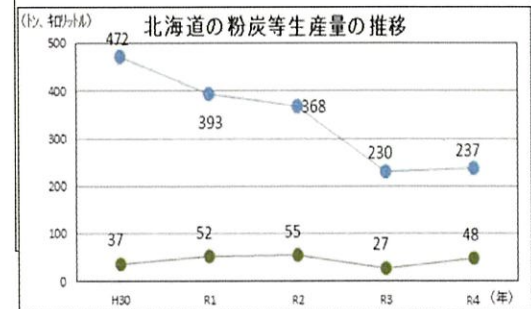
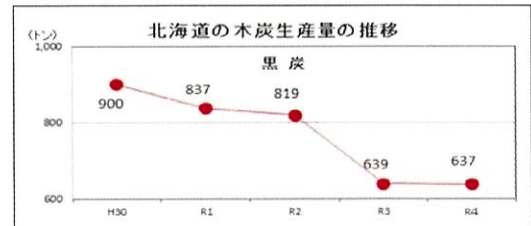
令和 4 年の木炭（黒炭のみ）生産額は約 1 億 3 千万円（前年比 100%）で、前年と横ばいとなっている。

(3) 生産者数

令和 4 年の木炭等生産者数は、木炭（黒炭）が 20 人で前年より 2 人減少、「粉炭」は 10 人で前年から 2 者増加、「木酢液」は 10 人で前年と同数となっている。

(4) 木炭の輸入

北海道における令和 4 年の木炭輸入量は 7,095 トン（前年比 102%）で、前年より 137 トン増加している。輸入量の国別割合は、ベトナムが 2,604 トンで 36.7% と最も多く、次いで中国が 1,748 トンで約 24.6%、インドネシアが 1,261 トンで約 17.8%、マレーシアが 1,257 トンで約 17.7%、となっている。



3 薪

薪は飲食店や、家庭用のストーブ等で使用されているほか、近年ではキャンプでの需要が増えている。

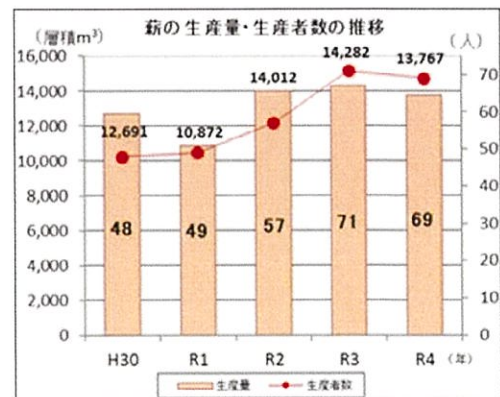
(1) 生産量

令和4年の薪生産量は、13,767立方メートル(前年比96%)で、前年とほぼ同等の生産量となった。

市町村別では、札幌市、旭川市、幕別町、倶知安町、白老町が主産地となっている。

(2) 生産者数

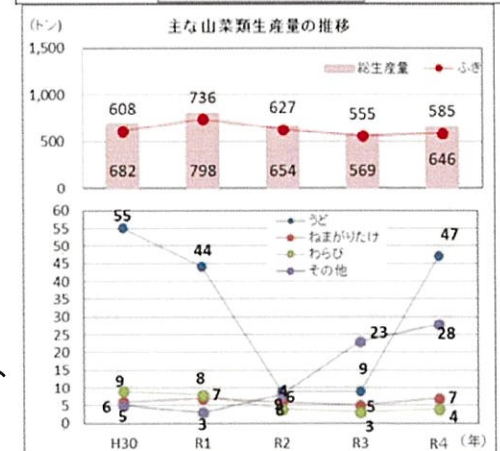
令和年の生産者数は69者(前年比97%)と前年より2者減少している。



4 山菜類

北海道で生産される山菜類は天然物の採取が主体で、全国的には盛んに行われている人工栽培の割合が低いため、天候の影響により生産量が大きく左右されるという特徴がある。

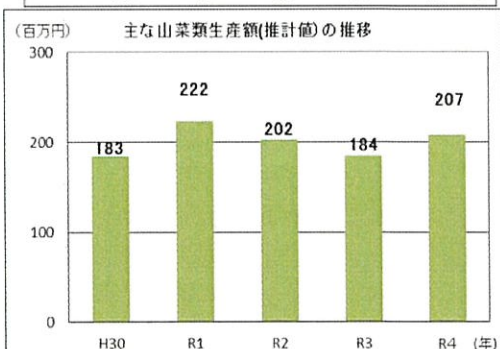
北海道で生産されている主な山菜は、「ふき」、「うど」、「ねまがりたけ」、「わらび」で、その他、「ギョウジャニンニク」、「たらめ」、「こごみ」なども生産されている。



(1) 生産量

令和4年の主な山菜類生産量は646トン(前年比114%)で、前年より79トン増加している。

市町村別では、「ふき」は足寄町、「うど」は北斗市、「ねまがりたけ」と「わらび」は蘭越町が主産地となっている。



(2) 生産額

令和4年の主な山菜類の生産額(推計値)は、約2.1億円(前年比113%)で、前年より約2千万円増加している。

(3) 生産者数等

令和4年の主な山菜類の実生産者数は12人と前年と横ばいになっている。

